

年頭所感

樽本樹邨名誉副会長揮毫（中日新聞1月1日号より転載）

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
編集事務局 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
山ビル8階C号室
電話 (583) 19000
FAX (583) 19100
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印刷 株式会社 荒川印刷



名誉会長 海部俊樹

ごあいさつ

皆様 あけましておめでとうござ
います。

昨年の夏は、高知県四万十市で、
観測史上最高の四十一度を記録する
など、猛烈な暑さに驚いたものです
が、その暑さの続く九月八日早朝、
第三十二回夏季オリンピックの開催
地が東京に決定したというニュース
が流れ、日本中を熱狂させました。
「お・も・て・な・し」の言葉を
筆頭に、多くの人の招致スピーチや、
決定後の狂喜乱舞の光景は、繰り返し返
してテレビで放映されましたから、ほ
とんどの方がご覧になられたと思ひ
ます。
みんなが肩を叩き合い抱き合つて
喜びを分かち合う光景はいいもので
すね。多くの方が日本人であること
を誇らしく思ひましたのではないで
しょうか。

さて、今年では中部日本書道会が創
立八十周年を迎える記念の年であり
ます。

多くの先人から引き継がれ受け継
がれてきた筆のリレー、書を学び愛
する精神のリレー、そういうものが
八十年続いてきた。凄いことだと思
います。

細長い日本列島で、東にも西にも
大きな団体・文化圏がある中で、そ
のいづれとも協調関係を保ちつつ、
ここ名古屋を中心に、独自の書道文
化圏を私たちは築き育ててきたわけ
であります。

継承されてきたものは決して単に
技術・方法だけではなく、書道とい
う文化の形、精神を育み、情操を磨
き、知性を鍛え上げる書人とし
ての態度であったと私は信じます。

そして今後ともそういう中部日本
書道会であつてほしいと心から願つ
ております。

中部日本書道会は穏やかな団体で

目次

- 1 海部俊樹名誉会長 新年のごあいさつ
- 2 安藤滴水名誉副会長 年頭所感
- 3 創立八十周年を迎えるにあたって
- 4 創立八十周年記念イベントのご案内
- 5 半田支部創立五十周年記念事業について
- 6 第五回理事会報告
- 7 故高木大宇常任顧問を偲んで
- 8 第二十二回書展を終えて
- 9 第四十五回日展入賞・入選者
- 10 創立八十周年記念第六十四回中日書道展
- 11 出品規程（抜粋）
- 12 二〇一三チャリティ愛の募金
- 13 賛同者ご芳名
- 14 厚生事業 ボウリング大会を終えて
- 15 支部名跡紹介
- 16 「吾が地の誇る先達の書」 No.2

安藤滴水名誉副会長 年頭所感



すが、ここ一番という時の結実力・
実行力は確かなものだと思つて
います。
八十周年の事業について、私は仔
細は存じませんが、既に幾つもの企
画が検討され、具体的な準備にか
かっていることと拝察いたします。
八十周年の歴史の半ば以上を、お仲
間として過ごさせて頂いたことは私

の喜びであり、誇りでもあります。
そういう者として私も八十周年を共
に祝い共に喜びたいと思つていま
す。
新しい年が、皆様方にとって、中
部日本書道会にとって、健やかな実
り多い一年でありますようにと祈つ
て、新年の挨拶といたします。

（中日新聞一月一日号
より転載）

「書は人なり」

初め展を開催し一七〇〇〇名
の参加を得て若き人材の育成
に力を入れていきます。幸い日
本の伝統文化である書道は教
育の原点として国民の皆さん
が我々の使命だと考えていま
す。そんな思い
をこめ八十周年
記念事業の一つ
に栄オアシス21
「銀河の広場」
において来る五
月二十五日一般市民の方々に
も参加をいただき書の魅力
を共有していただくことにしま
す。ぜひご参加下さい。

公益社団法人 中部日本書道会

副会長 安藤滴水

謹んで新年の
お慶びを申し上げ
ます。公益社
団法人中部日本
書道会は本年創
立八十周年を迎
えます。一般会員四七〇〇
名を擁し中書壇を代表する
団体です。また将来を担う学
生部の活動として年初に書き
に心から大切にされてきた経
緯もあり大きな財産でありま
す。昨今のパソコン等の普及
により、手で文字を書く機会

創立八十周年を迎えるにあたって



理事長 鬼頭翔雲

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本会々員の皆様には清々しい新年をお迎えになられたことと存じ上げます。本年も何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

今年には午年です。「駿馬」や「驥」といった言葉にあやかるべく、本会も今年一年、元氣よく活動して参りたいと念じております。

さて本会では今年、創立八十周年という大きな節目の年を迎えました。事務局では昨年初めより「この記念事業をいかに行うか」について検討を重ねてまいりました。その骨子が昨年末出来上がり、理事会でご審議を賜りました。ここに進捗状況をご報告いたします。

一つ目の事業は、記念誌「公益社団法人中部日本書道会八十年の歩み」の発行です。二十年前に刊行された「中部日本書道会六十年の歩み」を再度点検しながら、その後の二十年間の足跡を詳細に掲載すべく編集を進めています。

二つ目の事業としては、五月二十五日(日)名古屋市中区栄のオアシス21「銀河の広場」において『いつsh 懸命 楽しいっ書!』と銘打った書のイベントです。

なおこれらの記念事業も含めて、今後さらなる皆様のご意見・ご提言をいただくべく三つの目標(基本コンセプト)を設定しました。

- ① 一致結束、全力、前向き!
- ② 四七〇〇人、全会員参加!

③ 「書の魅力」「書の重要性」を強力にアピール! これらの目標は役員・事務局はもとより全会員の皆さんが積極的にこの記念事業にご参加頂き、この祭典をより華やかなものにしていきたいという考えから設定いたしました。さらにこれからいろいろなマスメディアにも働きかけ「書の意義」、「書の魅力」、「書の重要性」を社会に大きく発信したいと思っております。

今年はいへん大きな記念事業です。事務局一丸となって取り組んでまいりますので、会員の皆様の重ねご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に「第六十四回中日書道展」の準備状況です。二月下旬には出品規程、出品票等、書類一式をお届けします。本年は創立八十周年記念、来年は中日展六十五回記念と二年続けての記念展でございます。二科審査会員からは「記念賞」を、又、依頼以下各ランクでも記念展にふさわしい賞配分をと考えております。

一部から五部まで全ての部門で出品増に繋がりますよう各会派、ご社中、ご門弟にも周知頂きますと同時に、沢山のご出品を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり会員皆様のご健勝をご祈念申し上げます。今後とも、本会に対して変わらぬ、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



企画部長兼IT部長 横井宏軒

記念事業の趣旨

公益社団法人中部日本書道会は、昭和九年創立以来、先人の先生方と現会員の皆様のご努力により発展を続け、平成二十六年八十周年を迎えます。この節目の時期にさらに中部日本書道会の充実と発展、会員の皆様の書道活動や社会に貢献するために記念事業を実施したいと存じます。多くの皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

創立八十周年記念事業の予定

一、創立八十周年記念誌の刊行

公益社団法人中部日本書道会創立八十年の節目として記念誌を刊行し、これまでの中部日本書道会の歴史、足跡を再認識していただき、情報を提供し信頼感を高め、今後の大きな発展につながればと存じます。

- 1 タイトル…公益社団法人中部日本書道会八十年の歩み
- 2 規格…A4版 四百ページ

本史白黒 一部カラー

- 3 内容…前段の内容「挨拶・役員・重大行事」

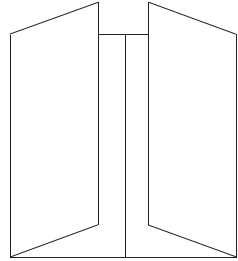
本史の内容「各年度別の行事・実施内容」

資料編「定款・規程・各種展覧会・講演会・講習会・事業・イベント・会員数 他」

二、創立八十周年記念リーフレット

中部日本書道会の歴史、足跡等の「公益社団法人中部日本書道会創立八十周年記念リーフレット」を作成して、全会員および関係機関、一般社会（児童から一般）の皆様配布したいと存じます。中部日本書道会の八十年の歴史を知っていただき、広く社会に中部日本書道会の情報を提供し、歴史と信頼性、イメージの向上、書道の魅力・興味を持っていただき、本会の更なる発展につながる「きっかけ」になればと思います。

- 1 タイトル…公益社団法人中部日本書道会創立八十周年記念
《これまでも、そしてこれからも》(仮称)
- 2 規格…A4版・四枚・
八ページ両面、
観音開き、
フルカラー



両面 観音開きリーフレット

- 3 内容…八十年の足跡
(沿革、主たる
行事・イベント)

三、創立八十周年記念イベント

《オアシス21の計画案》

日時 平成二十六年五月二十五日(日)

午前十時～午後四時

会場 オアシス21 銀河の広場

(名古屋市中区東横一丁目)

創立八十周年記念イベントタイトルを『いつsho 懸命 楽しいっ書!』として、以下のイベントを計画しています。広く社会に中部日本書道会及び書道を発信し、多くの方々にご参加いただき、書の魅力を知っていただき、楽しんでいただければと存じます。

1 大字書によるギネス認定

一字書の大きさとして世界最大の大字揮毫を行います。ギネス協会に認定していただきギネス登録を行います。

- 2 創立八十周年を記念して八十歳以上の先生方による
揮毫
会場ステージ上でパネルに揮毫いただき、作品は
ステージ上に設置展示します。

3 書道パフォーマンス

(高校生・大学生)

高校生・大学生及び十六歳から二十二歳によるチームごとに、八m×五mの紙に書のパフォーマンスを行っていただき、審査による順位をつけます。

4 小学生・中学生の大字揮毫

小学生・中学生が三m×一・八mの紙に大字揮毫して、書の楽しさ・魅力を知っていただきます。

5 書道体験・参加型コーナー

子供から大人まで当日の来場者に、以下のコーナーを無料で参加していただけます。



① 《あなたも書家気分》

半紙サイズに揮毫いただき、選抜審査を行い中日書道展覧会場(通路展示スペース)に展示します。

② 《篆刻コーナー》

参加者が手書きしたひらがな一文字を篆刻の先生が印材に刻します。

③ 《にぎり墨体験コーナー》

④ 《ハンカチなどへの揮毫コーナー》

四、第六十四回中日書道展覧会場

(愛知県芸術文化センター)の記念事業

中日書道展開催中に以下の記念事業を行い、来場された皆様へ、中部日本書道会の歴史と信頼性、イメージの向上、及び書の興味を更に持っていただければと存じます。

1 席上揮毫会

展覧会場ロビーにおいて、四部門(漢字・かな・近代詩文・少字数)の先生方による席上揮毫を行います。

2 「公益社団法人中部日本書道会 八十年の歩み」の パネル展示

中部日本書道会八十年の歴史の中から、主な行事・活動内容等をパネルで展示します。

3 オアシス21の揮毫作品の展示

オアシス21の書道体験コーナーで、揮毫された書を選択の上通路展示スペースに展示します。

4 オアシス21の記念イベント録画ビデオの放映

オアシス21で実施しました記念イベントの録画を、展覧会場に大型テレビを設置して放映します。

半田支部設立五十周年記念事業について

半田支部長 山内江鶴

半田支部は今年設立五十周年を迎えるにあたり五つの記念事業を行いました。以下簡条書きにして紹介させていただきます。

一、記念講演会は半田市文化協会会長山田晃先生に「半田の能書家」の演題で熱弁を奮っていただきました。

二、記念式典・祝賀懇親会は本部から名誉副会長、理事長、副理事長の先生方のご臨席を賜り、長年支部事業に多大なるご尽力をいただいた方々の功労者表彰も行い盛会裡に挙行できました。

三、「半田支部五十年の歩み」と題し記念誌を発刊しました。本会名誉副会長榎本樹郎先生のアドバイスをいただき素晴らしい記念誌ができました。

四、記念誌は皆さんの心を文鎮にしました。五、記念研修旅行は新潟美術館・良寛の里、初めての一泊研修会を実施しました。こうして五事業全てを滞りなく無事終えることができました。これも偏らず半田支部会員が一致協力して



こそ成し得た記念事業だったと思います。その中で特に多くの人と時間を費やした記念誌発行について詳しくお伝えさせていただきます。

ライトグレーA4サイズの記念誌「半田支部五十年の歩み」は八十七%が発行より六十九号を数える支部報で、主には役員にお願いして集めた文章と編集部員の記事であります。なかには会員の文章も加わり興味深いものです。

まず記事の体裁ですが、現在主流のA4横書きとし、活字は読みやすさを優先して通常よりやや大きめの明朝体と角ゴシック体を使用しました。表紙はレザックの厚紙でこげ茶の見返しも含め重厚感を表現し、本文は紙面を落ち着かせるためマットコート紙を使用しました。

全体の構成については前出の支部報の他、年表、歴代役員表の三本柱に特集の対談を組み込みました。その時を伝えるアイテムとしての文章はもちろんです。写真の文章はなるべく豊富に大きく載せることで時代を感じてもらえるよう心掛けました。特集の対談では、プロのカメラマンに対談者と対談風景の撮影を依頼し、臨場感を感じられるものを選び、質にこだ

わって作りました。その時々々の風景、ファッション、流行、年齢、人柄、空気などが端的に伝わることを思います。

さて対談の進行は、過去(昭和)・現在(平成)・未来をQ&Aの雑談形式で語ってもらいました。半田支部五十年の事業を中心に書・篆刻についての学習方法、芸術観や抱負まで盛り込むことで、次世代に向けてのメッセージとして記録しました。

初代支部長竹内渭川先生のご家族より昭和三十八年の支部設立時から退任される昭和四十八年までの資料をご提供いただきました。それは手書きでかなり詳細に記録

保存されており、とても新鮮に感じられました。そして記念誌を通して書の美しさ、書から伝わる人柄、昭和の時代を伝えたいという思いで、ご家族の了解を得て手書きの文書を原文のまま載せました。半田支部創始の思いは、『名門と自負できる本会の支部』であります。



平成二十五年度 第五回理事会報告

日時 平成二十五年十一月三十日(土) 場所 中日パレス(中日ビル五階)

本年度五回目の理事会が去る十一月三十日に開催されました。

鬼頭理事長の挨拶により始まり、二十八名の出席理事により、来年度に迫った本会創立八十周年記念事業の内容(八十周年記念誌の発行や記念イベントの実施等)について、事務局からの具体的かつ丁寧な説明を受け、熱心にまた慎重に審議が行われ承認されました。

出席者は次のとおり。

●名譽副会長

樽本 樹邨
安藤 滴水

●理事長

鬼頭 翔雲

●副理事長

松永 清石
関根 玉振
伊藤 昌石
(事務局長)

●理事

青木 清濤
天野 白雲
上田 賦草
大池 青岑
大島 緑水
岡野 楠亭
岡本 苔泉
梶山 夏舟

●監事

加藤 矢舟
加藤 裕
川崎 尚麗
工藤 俊朴
近藤 浩乎
榊原 晴夫
佐藤 慶雲
武内 峰敏
富田 栄楽
中野 玉英
中村 立強
平松 采桂
松下 英風
山内 江鶴
山際 雲峰
横山 夕葉
伊藤 暁嶺
柘 英峰
山本 雅月



第5回理事会

理事打ち合わせ会も同日実施
議題は、第六十四回中日書道展当番審査員選出について(案)の検討がなされました。

平成25年度

第6回理事会、第1回評議員会、講演会、懇談会

実施のご案内

日時 平成26年2月11日(火・祝)

場所 名古屋観光ホテル

講演 三重大学学長 内田 ^{あつまさ} 淳正 氏

演題 「超高齢社会を楽しく生きる為に」

14:30 理事会
16:00 評議員会
16:45 講演会
18:00 懇談会

講演会、懇談会については、広く会員以外の方のご参加も歓迎いたします。
本部までご連絡ください。

故高木大宇常任顧問を偲んで



安藤滴水名誉副会長が弔辞

高木大宇先生、ここに謹しんでお別れの言葉を捧げさせていただきます。

先生には入院中とは何っておりましたが、突然の訃報に接し、ただただ驚いております。

私は中日書道会に席をおかせていただいておりますので、先生とご一緒させていただく機会も多く、ご指導ご助言をいただきました。

ふり返ってみますと、先生には昭和六十二年から平成三年まで八年の長きにわたり、副理事長をおつとめになりました。

丁度この時期は岐阜県、三重県にも支部が設置をされ、中日書道会の八支部も整い、本会の目標とした五千名の会員に届いた年であり、その中枢におられた先生には、大変なご尽力をいただきました。

また、第三十八回中日展における先生のごあいさつは、今でもよく覚えておりますが、その中で「中日新聞の一面を使い、中日展の記事で満載にし、書道文化の啓蒙を計りたい」と申されておられました。将来を見すえた先見性、実行力はしつかりと現在に受けつがれております。

先生はまた中国をこよなく愛され、訪中も四十数回を数えらると伺いました。平成五年には中国北京において個展を開催され、芸術文化の交流にもつとめてられました。

来年は本会も創立八十周年を迎えますが、記念事業はじめ中日展にも先生にご尽力をいただくことを期待しておりましただけに、残念でなりません。

まだまだ思い出はつきませんが、書道人として書道界におけるご功績は多くの方々の心に残っております。

先生、お別れの時となりました。長きにわたり、ご指導ありがとうございました。

先生どうぞ安らかにお休みください。

平成二十五年十二月八日

中部日本書道会
名誉副会長 安藤 滴水

常任顧問 高木大宇先生

愛知県教育文化功労者表彰

平成二十五年十一月二十二日

平成二十五年愛知県教育文化功労者として愛知県知事表彰をご受賞された矢先でのご逝去でした。『多年にわたる県民の福祉増進に貢献した由をもって愛知県知事表彰いたします』(表彰通知文より)

永年に亘る書家として又、教育者としての幅広い活動は高く評価されておりました。

合 掌

理事長 鬼 頭 翔 雲

『書への好奇心と情熱を貫かれた青春の日々』

宇門会 山 田 白 陽

去る十二月六日大宇先生が逝去されました。知らせを受けた私達宇門会員と関係者は深い悲しみに包まれました。

思えば今年の春、検査入院中の先生をお見舞いにお伺いしたときのこと、病室の近くのロビーで他の患者さんの迷惑にならない程のペースを確保され、近年特に興味を持たれていた、中国の楚簡帛書の臨書をされていたのです。

横には大量の書籍がドサツと置いてありました。更には出版社、資料の題名等の話となり、「二玄社のは、この本が良いのでは」と書店に電話をして取り寄せる手続きまでしていただいたことが思いうかびます。

又、中国への思いも並々ならぬものがありました。訪中の回数は四十数回、各地の史跡や碑をめぐる旅、北京歴史博物館での先生の個展

等々思い出は数知れません。

十一月には愛知県教育文化表彰を受賞され、授賞式に出席されるのを楽しみにされておりました。まだまだやりたいことがいっぱいあったのではと思うと残念でなりません。

「好奇心と情熱さえあれば、いつもその人は青春である」という、私の好きなサムエル・ウルマンの詩であります。

大宇先生の生きかたは、まさに書への好奇心と情熱を最後まで貫かれた青春の日々だったと思います。

私たち会員は、これからも、先生の残されたお心を、自分たちの中に生かすことで、先生のおそばにあり続けたいと念じております。

合 掌

公益社団法人 中日書道会 第七回 公開講座

壽書展開催に合わせて実施

公開講座を終えて

研究部長 廣澤凌舟

日 時 平成二十五年
十一月二十三日(土・祝)
場 所 名古屋電気文化会館
五階イベントホール

十一月二十三日(土・祝)、電気文化会館五階イベントホールに於いて「書の魅力 公開講座」が開催され、多くの方(二四〇余名)にご参加いただきました。

副理事長兼事務局長 伊藤昌石先生の開会挨拶のあと、第一講座「筆の話」が始まりました。

講師である杉浦美充先生は、わずか十四名しかいない「豊橋筆伝統工芸士」です。

講座はまず、七千年前からの筆の起源、日本への伝来、筆造りの技法など内容の深い講義を解りやすくお話いただき、後半は筆製造工程である「仕上げ」を実演頂きました。

軸と穂を接着したあと、穂全体に糊がよく混ざりこむようにたつぷりと含ませ、巻きつけた糸を回しながら穂の形を整えていきます。糸でクルクル回りながら糊がしぼり取られる様子は見事で、次々と魅力的な筆が出来上がっていききました。この作業はチカラ加減が大変難しいとのことでした。

また筆の材料についても「質や環境の違いによって素材が変化しているので、工芸士の人たちは技術を磨き日々研究しています」とお話されました。

休憩の後、顧問 武山翠屋先生による第二講座「良寛の魅力」が始まりました。

良寛は江戸時代の僧侶で、魅力的な歌で多くの人を

魅了し、現在でも多くの書家の作品題材にされています。今秋の中日書道会史跡探訪研修旅行で訪れた杉岡華邨先生の作品の中でも良寛の歌が表現されていました。

今回の講座では、生い立ちから始まり、魅力的な人物像とともに「純粹な人で、村中の人から慕われていた」というエピソードの数々をお話いただきました。

会場には中日書道会が所有する良寛の拓本が二十三本展示されており、講座開始前に参加者の皆様にご覧いただき「これだけの作品が展示されることは珍しい」とカメラ撮影される方もいらっしゃいました。

また、講座と同じフロアの東西ギャラリーでは中日書道会主催「壽書展」が開催されており、講座後に鑑賞された方も多くいらっしゃいました。

両講座とも解りやすいご講義で、大変有意義な公開講座となりました。熱心にご講義いただきました講師の先生方に深く感謝申し上げます。また会員の皆様には多数のご参加をいただき厚くお礼申し上げます。

(文責 内山 蘭月)



第1講座 豊橋筆伝統工芸士 杉浦美充氏



第2講座 武山翠屋氏



中日書道会所有の良寛拓本23本が並ぶ会場

第22回 壽書展開催

会期 平成25年11月19日(火)～11月24日(日) 場所 名古屋電気文化会館5階東・西ギャラリー

壽書展を終えて

第二事業部長 佐野 翠峰

第二十二回壽書道展を電気文化会館東・西ギャラリーにて開催しました。第二十一回展より本会員の他に広く門戸を開放して、満七十歳以上の方ならどなたでも出品頂ける展覧会として二年目になる壽書展ですが、本年は十八名の会員外の方を含め二〇二点の出品を頂きました。

また、展覧会期間中の十一月二十三日(土・祝)

同会場イベントホールにおいて第十七回公開講座を開催しました。同日の観客数は例年に比べて多く、相乗効果があったと思われます。

本年もすべての部門に亘り、個性豊かな練達された作品ぞろい、見応えのある落ち着いた展覧

会となりました。

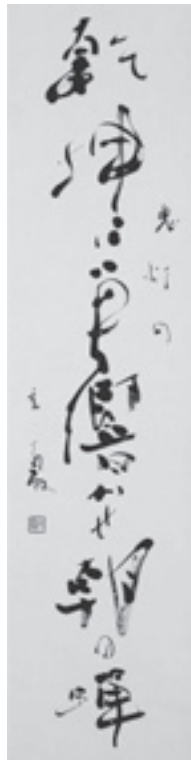
陳列、搬出日共に読売書法展中部展をはじめ多くの展覧会と日時が重なるという忙しい中、例年にも増して迅速かつ整然と作業をして頂きました。協賛会員各位及び第二事業部次長、委員の先生方のご尽力ご協力に対し、心より御礼申し上げます。

先生方の益々のご健勝、ご健筆を祈念申し上げますと共に、次回展にも多くの先生方のご出品を賜りますようお願い申し上げます。

寄贈作品

常任顧問 黒田 玄夏

顧問 今井 仙童



会場風景



喜びよりもこれからの精進



近藤 浩 乎

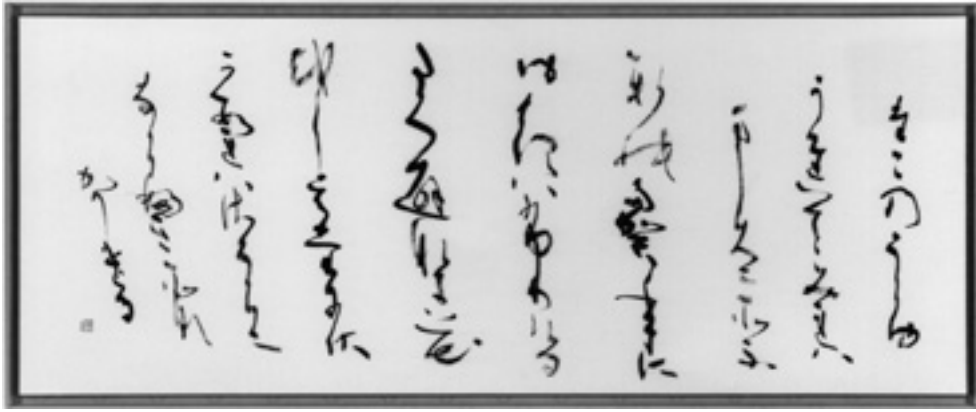
師の薫陶のお蔭で頂いた最初の特選から四年目に再度特選を頂くことが出来感無量です。その間勉強せねばと思う気持ちに縛られ、自由に作品を造り、線の強さ・造形意の妙を友と語り書に没頭していた昔が懐かしい程でした。

ここ数年、書いた枚数は半端でなく多いので、人から見たら変な生活だったと思われませんが、書けない己に悲しさは覚えても一度も苦しいとは思いませんでした。寸暇を惜しみ書く生活に耐え得る身体・それを許し応援してくれる家族・肝心なことだけ教えて下さる先生・見守ってくれる友が居ることに本当に感謝して書く日々でした。

想 い

何も無い紙面に動きを出し、それを余白を含め全体で一つの調和のとれた作にする。これは、仮名が持つ、ある意味世界に誇り得る日本の美だと思のですが、それをめざして書いても行の流れ、行間の響合を試行錯誤する日々で全く調和が見えてこず、出品作は搬入ギリギリの夜書いたものでした。今晚しかないという切羽詰まって胃も痛いし、体は限界と悲鳴を挙げているのに、心の何処かで書けることに幸せを感じていた気がします。特選を頂き夢のようです。

喜びの数日が過ぎた今は、今後の自分の責任の重さに恐れさえ感じます。毎日、古典を臨書してそれを創作に活かしてみえる先達がいらっしゃることを肝に銘じ、精進していくことを誓いたいと思います。今後とも皆様宜しくご鞭撻下さい。



感謝の気持ちで一杯



鈴木 立 齋

この度は、第四十五回日展におきまして、図らずも、浅学非才な私に、荣誉ある特選をお与え下さり、大変に恐縮いたしております。

これも偏に、審査主任という大役を勤められました、本会名誉副会長の樽本樹郎先生のご恩情、審査にあられました諸先生方のご厚情、諸先輩方のご高配の賜物と深く感謝いたしております。

思えば、書の勉強がしたい一心で、書を志す人たちの集う大学に入學し、直後、今なお指導いただいております、師の文墨に対する豊富な話題、特に古代文字、金石の世界に魅せられて篆刻を始め、あつという間に三十余年を経ました。私が篆刻を続けたいられるのも、熱心にご指導くださって

いるその師匠のお蔭と言ひ尽くせぬほど感謝しております。

制作にあたりましては、日頃から伝統を重んじ、古典に立脚した作品創りをと心掛け、牛歩のごとく歩んでおります。受賞作品の白文九文字印は、中国清朝後半期に名声を馳せた、呉讓之の作風を念頭に、下の朱文字四文字印は、その呉讓之に呉昌碩系の躍動感を加味し、力強い筆致で刻し、朱・白また款拓のバランスを考慮して構成しました。

まだまだ不勉強で今後、さらに民国以後の呉昌碩系の作家、錢厓・來楚生といった作家の作品にも挑んでみたいと思います。併行して、ただ印を刻すだけではなく、作品の充実のために書や漢籍の勉強もと念じております。

今後は、この受賞を機に再び初心に帰り、この榮譽を汚すことなく、愚直に努力精進する覚悟を新たにしております。何卒、尚一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。



(釈文) 居處恭 執事敬 與人忠



(釈文) 涵之 如海

論語句他

「じえじえじえ」の感動・感謝の一言



関根 玉振

ことに一生懸命向かってやり続けることの大切さ、今でも心に残っています。

長年書に没頭し続け念願の特選受賞の一報、言葉に尽くせない驚きと感動をうけました。書一筋に邁進してきた日々が夢と希望から喜びへと変わりました。
「継続は力なり」という言葉、何事も一つの

今回、古代の金石文字から一転、行草に挑戦してみました。宋代の米芾の書風を基盤とし、単体だが沈着・冷静に流れよく、行間・空間に気を配りながら、特に二行目中央に精魂をこめ全体を盛り上げるように作成しました。これを機に更なる目標に向かって練磨して行きたい。皆様方のご指導・ご鞭撻の程お願い申し上げます。

第五十八回 現代書道二十人展にご出品

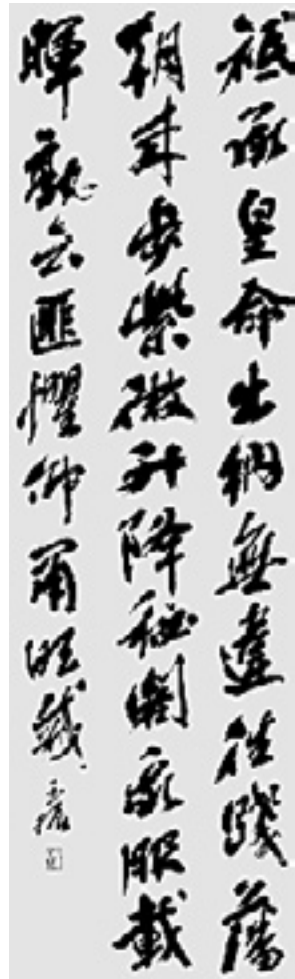
樽本樹邨名誉副会長

名古屋展

会期 平成二十六年一月二十五日(土)～二月二日(日)

会場 松坂屋美術館

松坂屋本店南館七階



答 賈長淵詩

第六十四回 中日書きぞめ展

会期 平成二十六年三月二十二日(土) 午後二時～午後六時

同 三月二十三日(日) 午前十時～午後六時

会場 ナディアパーク二階 アトリウム

名古屋市中区栄三丁目十八番一号

授賞式 平成二十六年三月二十三日(日)

ナディアパーク三階 デザインホール

中部日本書道会創立八十周年記念 第六十四回 中日書道展 出品規程（抜粋）

一、会期・会場

▼名古屋市民ギャラリー栄
平成二十六年六月 十日(火)～六月 十五日(日)
▼愛知県芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー
平成二十六年六月 十一日(水)～六月 十五日(日)

▼名古屋博物館

一科展覧会——平成二十六年六月 十七日(火)～六月二十二日(日)
二科展覧会——平成二十六年六月二十五日(水)～六月二十九日(日)

一、出品部門

第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文
第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格

十五歳以上(平成十一年四月一日生以前)の者とする。(但し十五歳から二十歳までの者(平成四年四月二日生から平成十一年四月一日生まで)は証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕を提出する。)

一、出品点数

出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法

各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料

各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費

正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失

一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。
(止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること)

一、審査日程

二科作品 平成二十六年五月 十日(土) 午前九時十分～
一科作品 平成二十六年五月十一日(日) 午前九時十分～
特別賞選考 平成二十六年五月十二日(月) 午前九時十分～

一、審査員

特別賞選考委員は、二科審・依嘱・無鑑査作品の審査にあたる。
一科審査員は、一科作品の審査にあたる。
二科審査員は、二科作品の審査にあたる。

一、褒賞

優秀作品に左記の賞を贈る。(二科佳作、一科秀逸の点数は第五十八回展から適用する)
・二科作品——二科賞(二点)・奨励賞(一点)・佳作(〇・五点)
・一科作品——推薦(二点)・特選(二点)・準特選(一点)・秀逸(〇・五点)
・無鑑査作品——中日賞・桜花賞
・依嘱作品——海部俊樹賞・大賞・準大賞
・二科審作品——創立八十周年記念賞

一、昇格規定

各資格において次の基準を満たすとき昇格する。
・一科 昇格——二科において総点三点に達した者
・無鑑査昇格——一科において総点五点に達した者

・依嘱 昇格——無鑑査において中日賞、桜花賞を受賞した者
・二科審査員昇格——依嘱において海部俊樹賞、大賞、準大賞を受賞した者
・一科審査員昇格——二科審査員において創立八十周年記念賞を受賞した者

一、授賞式

平成二十六年六月十五日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後三時半より(予定)

一、祝賀会

平成二十六年六月十五日(日) ウェスティンナゴヤキャッスル 午後六時より
〔参加は十八歳以上に限る。〕

一、入場料

三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

一、書類搬入等

書類搬入はすべて取扱い店がいたしますので、出品者は事前に取扱い店へ出品票、出品料、協賛費などご提出下さい。
締切りは四月十四日(月)までとさせていただきます。
中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱い店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。

※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱い店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他の注意事項

出品票には、住所、姓号、生年月日等が印字してありますので変更や誤りがありましたら赤字で訂正して下さい。
紛失した場合は、公益社団法人 中部日本書道会本部へご請求下さい。
搬入・搬出については、取扱い店に連絡を取ってください。所定の搬出時間を過ぎても搬出されない場合は、作品保管の責任は負いません。

※出品票は、本会会員の方及び会員外で昨年度ご出品の方は、本部から送付したものをご使用下さい。会員以外の方で新規出品の方は、事前に指導者もしくは取扱店を通じて本部へご申請下さい。本部からご本人に出品票をお送りします。(申請最終締切三月三十一日)

※新規出品の十五歳から二十一歳(平成四年四月二日生から平成十一年四月一日生まで)の方は、証明書〔免許証、学生証、保険証等のコピー〕を添付して下さい。

出品料・協賛費は理由の如何を問わず返却いたしません。

※本年度不出品者(正会員)の年会費は、後日郵送する振込用紙で納入していただきます。

※授賞式・祝賀会の期日および会場等は予定であり、変更される場合もあります。

第六十四回中日書道展作品展示会場

愛知県美術館ギャラリー 8F

六月十一日(水)～六月十五日(日)

審査顧問 特別出品	一科審査会員 二科審査会員	一部・二部・三部 四部・五部 作品	一部・二部・三部・四部・五部 創立八十周年記念賞 海部俊樹賞・大賞・準大賞 中日賞・桜花賞を含む
依 嘱	無鑑査	一部・五部 作品 二部・五部 作品	
無鑑査	名古屋市民ギャラリー栄	一部 作品	六月十日(火)～六月十五日(日)
無鑑査	名古屋市民ギャラリー栄	一部(中日賞・桜花賞は県美に展示)	
一 科	一部～五部 作品	六月十七日(火)～六月二十二日(日)	
二 科	一部～五部 作品	六月二十五日(水)～六月二十九日(日)	

一科作品を六月 十七日～二十二日まで陳列し、掛替えは行わない。
 二科作品を六月二十五日～二十九日まで陳列し、掛替えは行わない。
 ＊期日に遅れた作品、書類搬入のない作品は受け付けない。

審査顧問から無鑑査までの出品について

一、作品寸法

資格	種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	協賛費	年会費等
審査顧問	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
特別出品	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
一科審査会員 二科審査会員	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	(※顧問を除く)
依 嘱	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
無鑑査	A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 額(縦横自由)	一四〇〇〇円	
	帖・卷子(二科審査員・二科審査員・依嘱・無鑑査)			七、〇〇〇円

- ・審査顧問から無鑑査の作品寸法は右記の通りとする。
- ・二科審・依嘱・無鑑査の作品は「裏打ち」作品で搬入すること。(第一部・第二部・第三部・第四部とも共通)
- ・一審・二審・依嘱・無鑑査の作品で、帖・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三三五m×横四m以内。但し、帖は見開き横〇・七m以内。
- ・篆刻は二印以内で印影のみとし枠張りアクリル入り共に可とする。仕上がり寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
- ・刻字は一m平方以内とする。
- ・無鑑査の作品はアクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し、五部は除く)
- ・依嘱以上の作品はアクリル入りとする。(第一部～第五部)
- ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半折額を認めない。

一科出品について

一、作品寸法

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料	年会費
A	一・七六m(五・八尺)×〇・八五m(二・八尺) 枠(縦横自由)		
B	一・八二m(六 尺)×〇・七九m(二・六尺) 額(縦横自由)		
C	一・八二m(六 尺)×〇・六二m(二 尺) 額(縦横自由)		
D	一・〇六m(三・五尺)×一・三六m(四・五尺) 額(縦横自由)		
E	二・四二m(八 尺)×〇・六二m(二 尺) 額(縦横自由)		
F	一・二二m(四 尺)×一・二二m(四 尺) 額(縦横自由)		
G	〇・七五m(二・四尺)×一・五二m(四 尺) 額(縦横自由)		
H	〇・九一m(三 尺)×一・二二m(四 尺) 額(縦横自由)		
I	二・二二m(七 尺)×〇・七〇m(二・三尺) 額(縦横自由)		
帖・卷子(寸法は〇・三五m×四m・帖見開き〇・七m以内)			

・十五歳から二十一歳(平成四年四月二日生から平成十一年四月一日生まで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子は別に定める)

- ・作品寸法は右記の通りとする。
- ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
- ・作品は、創作又は臨書とする。
- ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
- ・帖は見開き横〇・七m以内。
- ・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。
- ・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)
- ・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
- ・刻字は、一m平方以内とする。
- ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)

二科出品について

一、作品寸法

種別	作品形式及び仕上り寸法(五部は除く)	出品料
A	一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) 枠(縦横自由)	
B	〇・九一m(三 尺)×〇・九一m(三 尺) 枠(縦横自由)	
帖・卷子(寸法は〇・三五m×四m・帖見開き〇・七m以内)		

・十五歳から二十一歳(平成四年四月二日生から平成十一年四月一日生まで)の方は、出品料に表装料を含め五、〇〇〇円とする。(帖・卷子は別に定める)

- ・作品寸法は右記の通りとする。
- ・作品は、すべて「裏打ち」作品で搬入すること。第一部・第二部・第三部・第四部とも共通。
- ・作品は、創作又は臨書とする。
- ・作品は、「枠張り」仕上りとする。(一部～四部)
- ・帖は見開き横〇・七m以内。
- ・卷子(第一部～第三部)は、縦〇・三五m×横四m以内。
- ・篆刻は、二印以内で印影のみとし枠張り・アクリル入り共に可とする。(但し、審査終了後となります。)
- ・仕上り寸法 縦〇・三九m×横〇・三三m。
- ・刻字は、一m平方以内とする。
- ・一・七六m(五・八尺)×〇・四八m(一・六尺) サイズについては半折額を認めない。
- ・アクリル・ガラス等を使用する額は受け付けない。(但し五部を除く)
- ・重量は四キログラムを超えないこと。

第六十四回 中日書道展出品について (取扱い店の皆様へ)

●書類搬入

・所定の出品票を四月十八日(金)に中部日本書道会本部へ書類搬入してください。(一科会員・展覧会役員の方については、出品料と共に年会費および協賛費を振込して下さい。)

・新規出品の十五歳から二十一歳(平成四年四月二日生から平成十一年四月一日生まで)の方は、証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を添付して下さい。・新規出品者は事前に本部に申請していただき、本部より出品票を本人宛お送りします。

・書類搬入がされていない作品は受け付けません。

●作品の搬入・搬出について

・個人による搬入・搬出は受付いたしません。作品取扱い店に委託してください。・二科審・依頼・無鑑査・一科・二科の裏打ち作品―五月九日(金)午前九時半―午前十一時 愛知県産業労働センター八階展示場に搬入。

●展覧会の搬入・搬出について

名古屋市民ギャラリー栄	搬入・陳列	六月九日(月)	午後一時	午後五時
	搬出	六月十五日(日)	午後四時	午後六時
愛知県美術館ギャラリー	搬入・陳列	六月十日(火)	午後一時	午後六時
	搬出	六月十五日(日)	午後四時	午後六時
名古屋博物館ギャラリー	一科作品 搬入・陳列	六月十六日(月)	午後二時	午後五時
	一科搬出	六月二十四日(火)	午前九時半	正午
	二科作品 陳列	六月二十四日(火)	午後二時	午後五時
	二科作品 搬出	六月二十九日(日)	午後三時	午後五時

●作品寸法(仕上り寸法)について

・二科・一科・展覧会役員の作品は定められた「仕上り寸法」とし、それ以外は受け付けません。
・審査顧問、一科審査員、二科審査員、依頼はアクリル入り、無鑑査はアクリルなしの枠張りいたします。

〔作品取扱店〕

浅井 梧竹堂	〒521-0633 名古屋市区あし原町六八一	電(〇五二)五〇四一二七〇三
石黒 五雲堂	〒525-0806 名古屋市中村区豊国通四一四六	電(〇五二)四二一七八六二
伊藤 大林堂	〒525-0804 名古屋市区朝日ヶ丘六三三	電(〇五二)七七六一八八一
永 楽堂	〒495-0856 西尾市永楽町四一〇	電(〇五六)三五四二〇五三
(株) 應天堂	〒521-2127 岐阜市下鶴飼一四六八	電(〇五八)二九九一五二〇〇
(有) 岡本頌文堂	〒520-0808 四日市市北町三一四	電(〇五九)三五二一六〇一〇
魁 盛堂 (株)	〒521-0833 名古屋市区西区押切二二二一三	電(〇五二)五二一三三一一
加藤 長寿堂	〒525-0800 名古屋市中村区太閤一六一二二三	電(〇五二)四五二一四七五一
(株) 川口春霞堂	〒527-0833 あま市七宝町下田四反割二	電(〇五二)四四四一八〇二四
(有) 伽藍	〒520-0822 名古屋市区大須三三八一〇	電(〇五二)二四二一七七一
菊屋 商店	〒520-0807 名古屋市区新栄二一四四六	電(〇五二)二四一四一四五
(有) 吸月堂	〒520-0806 名古屋市区清水二二二二	電(〇五二)九三二一六九四八
金陽堂表具店	〒527-0805 豊田市久保町三一二七一	電(〇五六)五三二一〇八六三
小松 表具店	〒525-0833 小牧市東二一五四四	電(〇五六)八七五二〇二八一
(株) 柴田紙店	〒521-0856 一宮市本町三一九一八	電(〇五八)六七二二二〇〇一
(有) 新泉堂	〒520-0806 名古屋市区若鶴町三四四一	電(〇五二)九〇一〇五一四
(株) 青雲堂	〒495-0808 安城市今本町三一五一五	電(〇五六)九八二二三三三
(株) 青柳堂	〒520-0808 名古屋市区中區榮四一八中區役所ビルF	電(〇五二)二五九一〇三二三
創源 工房	〒521-0806 名古屋市区若田三一〇六	電(〇五二)六二九一五〇三五
(有) 莊文堂	〒526-0807 知多市新知宝泉坊三〇一	電(〇五六)二五五一〇五一七
(株) 大玄堂	〒520-0839 岐阜市須賀一八二二五	電(〇五八)二七一二六六二
(株) 大林堂	〒520-0808 名古屋市区中區榮三一二七一五	電(〇五二)二六一一四八四六
(株) 名古屋キョー和	〒520-0808 名古屋市区中區榮四二二一〇(小浅ビル2F)	電(〇五二)二六三一九四〇一
名古屋ホウコドウ	〒520-0806 名古屋市区東区水切町二二八一八	電(〇五二)九一五一七九八
西川堂森表具店	〒521-0856 一宮市本町四二二三一	電(〇五八)六七二一三六二九
平野筆墨堂(株)	〒520-0803 名古屋市区守山区大森一二二七〇一	電(〇五二)七九八一六六五一
松屋 紙店	〒525-0806 半田市清水北町六三	電(〇五六)九二二一二五七二

中部日本書道会創立八十周年記念 第六十四回 中日書道展 日程表

四月 十四日 月	書類（取扱店へ）	
十八日 金	書類搬入（業者）本部へ	受付 午前十時～十一時半 作業 午後三時まで
愛知県産業労働センター		
五月 九日 金	二科審・依嘱・無鑑査・一科・二科裏打ち作品搬入	午前九時～午後五時
十日 土	二科・鑑査	
十一日 日	一科・鑑査	午前九時～午後五時
	一部・二部・三部・四部・五部	
十二日 月	裏打ち作品搬出 特別賞選考（二科審・依嘱・無鑑査）	午前九時～午後三時 午後四時～午後六時
名古屋市民ギャラリー栄		
六月 九日 月	無鑑査（一部） （中日賞・桜花賞は県美に展示）	搬入陳列 午後一時～午後五時
十日 火	展覧会役員作品展示	午前九時半～午後六時
十一日 水	〃	午前九時半～午後六時
十二日 木	〃	午前九時半～午後六時
十三日 金	〃	午前九時半～午後六時
十四日 土	〃	午前九時半～午後六時
十五日 日	〃	搬出 午後四時～午後六時
愛知県美術館ギャラリーI		
六月 十日 火	審査顧問・特別出品・一科審査会員・二科審査会員・依嘱（一部～五部）・無鑑査（一部～五部） （一部～五部）八十周年記念賞・海部俊樹賞・大賞・準大賞・中日賞・桜花賞を含む）	企画委員と主任 午前十時～ 搬入陳列 午後一時～午後六時

六月 十六日 月	一科搬入・陳列	搬入陳列 午後二時～午後五時
十七日 火	一科展覧会	午前九時半～午後五時
十八日 水	〃	午前九時半～午後五時
十九日 木	〃	午前九時半～午後五時
二十日 金	〃	午前九時半～午後五時
二十一日 土	〃	午前九時半～午後五時
二十二日 日	〃	午前九時半～午後五時
二十三日 月	休館日	
二十四日 火	一科搬出・二科搬入 二科陳列	搬出搬入 午前九時半～正午
二十五日 水	二科展覧会	陳列 午後二時～午後五時
二十六日 木	〃	午前九時半～午後五時
二十七日 金	〃	午前九時半～午後五時
二十八日 土	〃	午前九時半～午後五時
二十九日 日	〃	搬出 午後三時～午後五時
名古屋博物館		
十五日 日	〃	搬出 午後四時～午後六時
十四日 土	〃	午前十時～午後六時
十三日 金	〃	午前十時～午後八時
十二日 木	〃	午前十時～午後六時
十一日 水	展覧会役員作品展示	午前十時～午後六時

※授賞式・祝賀会 六月十五日（日） ウェスティンナゴヤキャスル（予定）

各支部の寄託報告

〈一宮支部〉

平成二十五年十二月二十四日(水)
一宮市社会福祉協議会へ支部長の岩田潤流氏と一宮書道連盟会長の川浦碧濤氏が伺い十万円を寄託



〈半田支部〉

平成二十五年十二月二十五日(木)
半田市社会福祉協議会へ支部長山内江鶴氏と支部役員三名が伺い、事務局長の藤牧実氏に十万円を寄託



〈西三河支部〉

平成二十五年十二月二十六日(木)
高浜市社会福祉協議会へ支部長の丹羽常見氏と支部次長四名が伺い、「心身障害児施設のみどり学園」へ長谷川宜史事務局長に十万円を寄託



◇社会福祉協議会に寄付
高浜市社会福祉協議会へ、心身障害児施設のみどり学園へ、長谷川宜史事務局長に十万円を寄託した。同会は障害者の社会参加、職業生活の向上に力を発揮している。

中日新聞 (西三河版) 2013.12.28 (土)

〈東三河支部〉

平成二十五年十二月二十六日(木)
中日新聞社豊橋総局へ支部長の古川昇史氏他二名が伺い、中日新聞社会事業団に十万円を寄託

中日新聞 (東三河版) 2013.12.27 (金)



◇年末助け合い運動に寄託 中部日本書道会東三河支部の古川昇史支部長ら3人が26日、中日新聞豊橋総局を訪れ、「年末助け合い運動」と、会員から集めた募金10万円を中日新聞社会事業団に寄託した。写真。

〈濃飛支部〉

平成二十五年十二月二十四日(火)
恵那市社会福祉協議会へ支部次長の砂場佳陽氏が伺い五万円を寄託



平成二十五年十二月二十七日(金)
中日新聞萩原通信局へ支部長の石原聲風氏と支部次長の森京華氏が伺い五万円を寄託



〈中南勢支部〉

平成二十五年十二月二十八日(土)
中部日本書道会中南勢支部 財団法人三重ボランティア基金

三重ボランティア基金に寄付

第一公益財団法人中部日本書道会 本部、名古屋 集まらな、中、継いで、市村区 会員数七百 寄付いたのは本支部が、中勢支部は十七、がたい、ボランティアの助成や奨励のボランティア基金(理事長・森下達也、IAセンター)支援に有効に、使わせていただきます。に十万円を寄付した。謝辞。

へ支部長の古古口大虚氏が伺い、古庄憲之副理事長に十万円を寄託



〈岐阜支部〉

平成二十六年一月九日(木)
岐阜県県庁人づくり文化課へ支部長林玲玉氏と事務局長後藤文明氏が伺い、秦康之環境生活部長に十万円を寄託



会員交流ボウリング大会を終えて

去る十二月八日(日)、星ヶ丘ボウルで平成二十五年度中日日本書道会会員交流ボウリング大会が開催されました。

鬼頭翔雲理事長の今年度流行語大賞の、「今でしょ」「倍返し」「じゃえじゃえ」「お・も・て・な・し」の四つを入れたユーモアあふれる開会のお言葉で始まり、午後三時、樽本樹邨名誉副会長、安藤滴水名誉副会長お二人の、力強い始球式で七十二名の参加者が腕を競い合いました。

厚生部長 小島 瑞 柳

られしました。最高齢八十三歳の田中白雲氏が、十六位という素晴らしい成績で今年もご参加いただき、会員一同元気を頂きました。

その後の懇談会は、戦いの後のビールが皆さんをハイテンションにし、とても和やかに、にぎやかに盛り上がりしました。

午後七時頃、伊藤昌石副理事長兼事務局長の閉会のお言葉で、無事終えることが出来ました。

この催しにご協力頂きました皆様、賞品を提供頂きました協賛会員の皆様、本当に有難うございました。



社中展・個展のご案内

○第二回大和会役員展

会期 平成二十六年三月二十五日(火)～三月三十日(日)
会場 名古屋電気文化会館 五階「東西ギャラリー」
代表 会長 石澤 桐雨
理事長 伊藤 昌石

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。
会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。
次号(四月号)は五月中旬～八月中旬の展覧会を掲載予定です。
編集部

会費未納の方にお願

年度末も間近となってまいりました。平成二十五年度会費未納の方は、至急お納め下さい。(正会員で中日書道展不出品の方及び準会員の方で未納の方)

本部会員は、郵便振替 〇〇八九〇一六一四四二〇。支部会員は、各支部会計担当者にご連絡下さい。

住所変更、改姓、改号、社中変更等

変更事項は本部までご一報下さい。

〇五二(五八三)一九〇〇

新入会員紹介

(十・十一・十二月分)

●一宮支部 ●東三河支部

諏訪部 菜華 彦坂 弘青
安江 稲華

訃報

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。(厚生部)

○8月 正会員 島田玲子氏

○10月6日 正会員 村田草舟氏 享年79才

○10月15日 評議員 中川星光氏 享年66才

○10月25日 評議員 澤田善石氏 享年82才

○11月16日 評議員 黒野芝香氏 享年72才

○11月16日 評議員 黒野芝香氏 享年72才

○12月2日 正会員 長縄美扇氏

○12月6日 常任顧問 高木大宇氏 享年84才

○12月9日 名誉顧問 鬼頭有一氏

○12月14日 正会員 武田郁野氏 享年80才

あとがき

会報一七一号をお届けいたしました。ここところ重鎮の先生方の訃報に接すること多く、時の移り替わりの速さと無常感を持つのは私だけではないと思いますが、会員ひとりひとりが今出来る事を心を込めてやり遂げましょう。八十周年迄カウントダウンの日々を……。

(編集部)

ホームページアドレス
メールアドレス

http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp

支部名跡紹介『吾が地の誇る先達の書』

昨年度発行の会報一六七号に続く第二弾です。是非足をお運びください。

一宮支部

「良寛の歌」碑 神田真秋氏揮毫

平成七年七月、一宮中ライオンズクラブ設立三十五周年を記念し、一宮市で本格的な池のある浅井山公園の温故井池に、長さ五十メートルの泥止めフェンスを設置し、日本を代表する観賞用の花蓮を移植、併せて、当時の一宮市長神田真秋氏揮毫による「良寛の歌」碑を建立しました。

みはへするものこそなけれこがめなる
はちすの花を見つ、しのばせ

「おもてなしをするものとして何も無いが、小瓶にさした蓮の花を見て私の心をくんでください。」という貞心尼に詠まれた歌です。



「良寛の歌」碑

良寛様の素朴な温かい心が伝わってきます。この心こそが日本人としての奥深いおもてなしなのかもしれません。神田氏の書風にもそんな温かく穏やかな心が満ち溢れている様に思います。

浅井山公園は市民の憩いの場であり、写真撮影に訪れた時も、温故井池で釣りを楽しむ人達や遊具で遊ぶ親子の姿が見られました。池には噴水もあり、多くの鳥達も戯れていました。一度お出掛けになられてはいかがでしょうか。



一宮市浅井山公園

所在地 愛知県一宮市浅井町東浅井

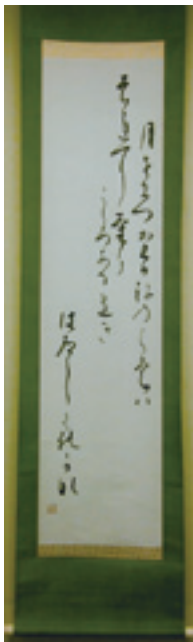
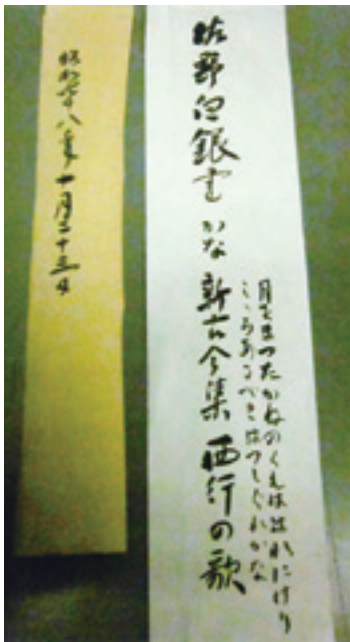
神田真秋氏は、一宮市長、愛知県知事を長年務められ、現在は、愛知県芸術文化センター総長、日本赤十字社愛知県支部支部長など多くの要職に就かれ、本会に於いては名誉顧問としてお世話になっています。

半田支部

知多半島五市五町には、昔から多くの書家を出していますが、今回は東海市の佐野白銀先生を紹介いたします。

佐野白銀先生は、明治三十七年（一九〇四年）東海市高横須賀に生まれました。本名は鎌造。書を吉田苞竹・尾上柴舟に師事。昭和三年に西浦書道会を設立、文部省検定試験習字科に合格、昭和二十二年横須賀中学校教諭、同三十二年横須賀教育長となる。教育と書道会に尽くした。同五十三年享年七十四歳で亡くなられた。
尚、当支部会員の三島蘭汀氏のお父様である。

月を待つ
高嶺の雲は
晴れにけり
ころあるべき
初時雨かな



駐蹕御趾の碑

JR乙川駅から北北西へ徒歩十四分、小さな白山公園があります。この公園には多くの石碑が建てられており、中には明治天皇がこの地に足を運んだことを示す碑が残っています。



勝海舟の筆による

明治二十三年（一八九〇）三月二十八日から四月五日まで愛知県下において第一回の陸海軍連合大演習が行われました。二十九日から三十一日までには知多半島が舞台となり、中でも三十一日は半田一帯で展開された陸戦演習が中心を占めるものでした。「駐蹕御趾の碑」は、その演習を統監するために明治天皇が野立した地を記念して建てられたものです。
「駐蹕御趾」の字は海舟勝安芳筆によるものです。

西三河支部

刈谷市の紹介

刈谷市はトヨタグループの豊田織機、デ
ンソー、アイシン、トヨタ車体、豊田紡織、
ジェイテクトなどの企業が沢山ある産業の
町である。

刈谷市は昨年刈谷城築城四八〇年記念行
事が行われた。刈谷城は一五三三年水野忠
政が刈谷の亀城公園に築城した。水野忠
政は娘の於大を松平広忠と結婚させ竹千代
(徳川家康) が誕生したのは有名である。

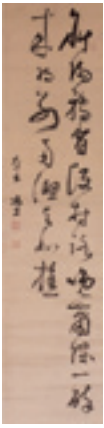
歴史的には史跡が多くあり、今回紹介す
るのは松本奎堂(まつもとけいどう)(一
八三二—一八六三)は三河国刈谷城三の丸
に生まれた幕末三河刈谷藩藩士、天誅組総
裁、尊攘派志士である。

幼い頃から学を好み、一〇歳にして詩文
をつくり神童と称えられ秀才であったが、
三味線や胡弓を奏で、美声の持ち主で歌も
上手な芸達者だった。

父が刈谷藩用人兼漢学甲州流軍学師範と
いう環境から十一歳で名古屋の尾張藩儒臣
奥田桐園入門。伊藤両村のもとで朱子学
を修めた。若くして父を助けて門弟を教授
し十八歳のとき槍術稽古で左眼を失明した。

松本奎堂辞世の句は
「君が為 命死にきと世の人に
語りつきてよ 峰の松風」
松本奎堂歌碑が刈谷の亀城公園内にある。

松本奎堂書



松本奎堂歌碑

次に中島秋拳を紹介する。中島秋拳は安
永二年(一七七三)刈谷藩士中島左守高賢
の長男誕生、名は大之丞、のちに衛輔(え
すけ)と改めた。諱(いみな)は惟一、字
は子徳といった。

享和二年(一八〇二)三〇歳で致仕し、
自ら雅髪して曙庵と号し、俳諧の道に入っ
た。

全国を回り、生涯独身で俳諧三昧の暮ら
しをする。刈谷市の市原稻荷神社の社頭に
立つ中島秋拳の句碑に

「夜わたしの 今の声あり 華さかり」
とある。

この句碑は天保一〇年(一八三九)に秋
拳の門人である加藤茂陵らが建設したもの
で、市原の渡し場のにぎやかな様子を詠ん
だもので、秋拳の代表句である。



中島秋拳の句碑

刈谷市内には最近歴史を残す石碑が各地
にみられる。これを書いているのは中日書
道会の松原南流先生である。



伊勢湾台風の記録

この四つ辻は江戸時代から「札の辻(ふ
だのつじ)」と呼ばれてきた。それは刈谷
城下の中心で人の行き来も多く西北の角に
は高札場があって幕府の定めを書いた板札
があったからである。



東三河支部

高須森之碑について

今回も、豊橋西部に位置する吉田方にあ
る高須森(本名は久曾神征衛)の碑を紹介
します。

この碑の文字は仮名の大家田中塊堂先生
によるものです。端正な文字でおおらかな
楷書体で書かれています。

碑の裏面も、五百八の文字が整然と進め
られていて、実用の書もこうあるべきだと
教えているようです。

田中先生は、岡山県の出身で川谷尚亭先
生に師事したが、仮名は独学で古筆の研究
を行ない、細字だけでなく、大字作品も書
かれ普及をされた。また、古写経の研究も



高須森之碑表面



高須森之碑全景

され文学博士、日展審査員、芸術院賞も受
賞しています。

この碑は一メートルほどの石積みの上
に、高さ一・八メートル、幅〇・九メート
ルの黒みがかつた石に彫られています。

※ 当東三河地方は、幕末から昭和二十年頃
までの娯楽の少なかった時代に青年の体力
増進と精神修養のために草相撲が盛んに行
なわれ、祭礼、新築祝、開店祝などに県内
だけでなく静岡県西部までも請われて行く
ほどの大きな団体として東三八幡講相撲協
会があった。高須森はこの協会の取締役頭
取に推挙された人です。

因に高須森は、愛知大学元学長久曾神
昇先生の父親です。

(文責 岡田昭尚)

濃飛支部

わが誇に思う郷土の書画家

熊谷守一

熊谷守一と言えば余りにも有名で敢えてここで不見識な私が特筆するまでもありませんが、少し述べてみたいと思います。

中津川市付知町

アートピア付知内に熊谷守一記念館があります。守一の画業を系統立てて紹介するために作品の収集も含めた記念館としての働きが大いに発揮されています。



守一年譜によりますと守一は明治十三年恵那郡付知村に生まれました。中学三年で上京、画家を志望します。明治三十三年東京美術学校洋画家選科に入学し二十四歳で卒業しました。明治四十三年母親の死を機に帰郷し、六年間裏木曾の山中で生活しました。冬は付知町の奥で生活していた様です。大正十一年四十二歳で結婚しました。昭和三十九年パリのダヴィットエガルニエ



画廊主催で守一大個展が開かれ好評を博しました。昭和二十三年名古屋丸善において熊谷守一新作毛筆画展が開かれ、この頃より再び五十八歳で日本画を画き始めます。昭和四十二年文化勲章者に内定していましたが辞退された話は有名です。昭和五十二年八月九十七歳で永眠されました。

守一は絵画だけでなく毛筆も書いています。「熊谷守一の書」と言う本を書店で立ち読みしたことがあります。上っ面だけでコメントする事はとても失礼ですが、力強い線筆で極限の無駄のない素朴な書風に感じ入りました。自然の大きな空間に包まれている様な気がしました。昨年紹介しました中津川照寿庵に守一の書、「齒はハ」「石」の書、「恵那山」の絵画がありますので紹介します。

(石原聲風)



北勢支部

「社号額」三題

神社には、社号標、額のほか、鳥居、狛犬句碑、筆塚など先人の書跡があり、気をつけて歩けば新しい発見の楽しみがあります。新春に当たり、支部管内の神社で書家の揮毫した「社号額」を紹介します。

川島神社 (四日市市川島町)

伊勢神宮(外宮)の神領であった川島神社には、明治の三筆のひとつ岩谷一六(天保六年)明治三十八年)揮毫の社号額がある。額の下部に金色の波が彫刻され豪華なものである。同町の「まちかど博物館・勢州墨和館」の山田さんが、五年前初詣で何気なく社殿の中を覗いたところ巨匠の額を発見、大きな話題になった。揮毫の経緯について山田さんは神社関係者、一六の子孫、書簡、関係者の交友関係など調べたところ、書(大師流)、和歌(佐々木弘綱)の人脈から四日市市赤堀の八阪神社主・原忠清が依頼したのではないかと推定している。



伊勢神宮(外宮)の神領であった川島神社には、明治の三筆のひとつ岩谷一六(天保六年)明治三十八年)揮毫の社号額がある。額の下部に金色の波が彫刻され豪華なものである。同町の「まちかど博物館・勢州墨和館」の山田さんが、五年前初詣で何気なく社殿の中を覗いたところ巨匠の額を発見、大きな話題になった。揮毫の経緯について山田さんは神社関係者、一六の子孫、書簡、関係者の交友関係など調べたところ、書(大師流)、和歌(佐々木弘綱)の人脈から四日市市赤堀の八阪神社主・原忠清が依頼したのではないかと推定している。

麻生神社 (桑名市北勢町麻生田) 天照大神を祀る麻生神社の社号額も、巖



谷一六揮毫。額は櫻の黒光に金の文字が映え見事なものである。近くにある「まちかど博物館・瞿麦堂」に一六の書いた堂号があり、癸未瓜月為小川兄雅鑑との為書きがあるところから、堂主小川さんの祖父・亀十郎さんが篆刻をやっていた縁で一六と交流があり、神社の額も書いて貰ったのではないかと推測される。

なお、同神社の社号石碑は、あまり見かけない篆書体である。(筆者不明)

諏訪神社 (四日市市)



市の中心にある諏訪神社は、市川塔南(安政三年)昭和二十八年)九十六歳の作。社号石碑も隷書の堂々としたもので塔南揮毫と思われる。塔南は津市生まれ、内国勧業博覧会で一等になった人物。隷書と篆書が巧みで多くの石碑、幟を揮毫し、県内で明治、大正、昭和に建立された石碑で隷書体のはほとんど翁の揮毫である。

(文責 谷 泉石)

中南勢支部

尾崎号堂

憲政の父と言われた尾崎行雄。書跡にも味があるとの評判です。館長さんも気さくな方で号堂さんに興味を持たれた方は、伊勢神宮そして記念館へいかがですか。

わが国憲政史上に不滅の功績を残され、世界平和のために献身 憲政の神と仰がれました尾崎号堂先生は、わたくしたち郷土の誇りであります。

今日、民主主義を唱えることはごく当たり前の時代ではありますが、民主主義も単に戦後の現象ではなく、永い時代と人々の不断の努力によって、はじめて完成されるものであることを尾崎先生の生涯を通じて感得されるものであります。

偉大なる尾崎先生の理想は、人類が平和を熱望する心を持ち続けているかぎり、後世に受けつがれることでしょう。

この記念館には、ありし日の先生の写真、遺筆、遺品等を陳列してございます。ご来館くださいますと、尾崎先生の精神と信念を特に若い世代の皆様の方に培っていただくよう希望いたします。

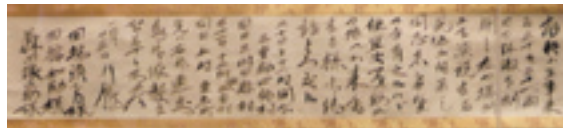
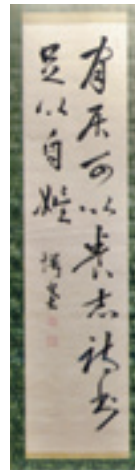


尾崎号堂記念館

〒516-0052 三重県伊勢市川端町97-2 電話0596-22-3198
JR・近鉄伊勢市駅下車 タクシー10分
三交バス(川端堤)下車すぐ
開館時間 午前9時から午後4時30分
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日休館)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
入館料 大人100円 小・中・高校生 無料

和歌でたどる政治家号堂の思い

大君に捧げまつれる我が身なり いざ抛たん国民のため
五月雨のそぼふる窓に書みれば 生きぞつかる、国の行末
我れ逝かば誰か護らむ憲法の道 老ゆとも逝かじ人続くま



「わが遺言」を出版する

昭和二十二年「わが遺言」を出版。とくに世界連邦建設の提唱のごときは、ぜひ世界の人々にも読んでもらいたい遺言である。と書いた。二十七年病床につく。二十八年、二十六回目の選挙ではじめて落選。国会は尾崎に「衆議院名誉議員」の称号をおくった。東京では「名誉都民」第一号をおくった。自由と民権のために六十余年の間戦って来た。憲政の父は、皮肉なことに憲政史上に汚点を残した乱闘国会の余燼くすぶる二十九年十月六日夜、ついに九十七歳の生涯を閉じ、白玉楼中の人となった。筆者の耳に残る病床の一言、それは、どううか、婦人と若い人たちに、私の思想を伝えてほしいと言ったことでした。

岐阜支部

芭蕉元禄の街——岐阜県大垣市

奥の細道むすびの地記念館と句碑めぐり

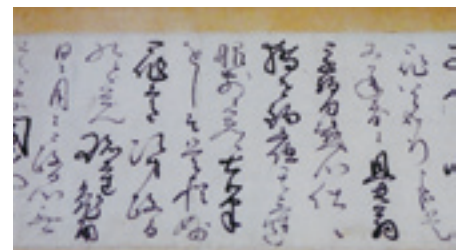
元禄二年(一六八九)の秋、俳聖・松尾芭蕉は、約五ヶ月の漂泊の旅を大垣で終えました。世に名高い「奥の細道」の旅です。その折、芭蕉は「蛤のふたみに別行秋そ」と詠んで桑名へ水門川を舟で下りました。



結の句 蛤のふたみに 別行秋そ

そして現代、その川港跡地側の「奥の細道むすびの地記念館」にて足跡が垣間見られます。

館内では「奥の細道」を旅路ごとに区切り、資料と映像で紹介されています。また芭蕉真筆(レプリカ)書状も展示され、人物像や旅に生きた人生をも感じ取られます。



芭蕉真筆(中期)書状(レプリカ)

す。又、三月二十九日(五月十八日)「旅心定まりぬ」と題した企画展にて芭蕉の真筆が展示紹介されます。

桑名へ下った水門川沿い(二・二km)

の「奥の細道」の代表的な句が刻まれた二十二碑を巡り芭蕉の足跡をたどるのも風情があります。

大垣市奥の細道むすびの地記念館

大垣市船町二丁目二十六番地一 TEL ○五八四一八四一八四三〇

(文責 豊水御風)



芭蕉像